

『御手の中で砕かれ新しく！』 エレミヤ書 18章1～18節 2015.4.12(日)

『…イスラエルの家よ。この陶器師のように、わたしがあなたがたにすることができないだろうか。一主の御告げ一見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように…あなたがたも、わたしの手の中にある。』 エレミヤ 18 章 6 節

神の民・ユダの状況は最悪だった。エレミヤは神の「裁きと救い」の御旨を何度も伝えたが、全く聞く耳はなく、ますます頑固になって反抗し、ついにはエレミヤを抹殺計画まで立てる(18:21)。この状況で神は、エレミヤを陶器師の許に遣わして作業をみさせ、『この陶器師のように、わたしがあなたがたにすることができないとでも思うのか。…あなたがたも(神の民もエレミヤも)わたしの手の中にある！(6節)』と告げた。

◆聖書の中心テーマは『再生(復活)』である。完全に駄目になったものが、全く新しく造りかえられるのである！神が注がれる祝福と幸せを妨げ、災いとしてしまう唯一最大の害悪は、『悔い改めない、頑固な心』(7～10 節)である。逆に、私たちがどんなに神の恵みを忘れ、不従順を繰り返し、その裁きと滅びが決定的となったとしても、その罪に気づいて心から悔い改めるなら、神はその災いはとどめられる！

◆かつてイスラエルの民は、400年ものエジプトの奴隷生活から解放され、祝福の地カナンを目指すのが、1ヶ月もかからない旅路に 40 年間もかかってしまった。彼らは荒野で、水がない・パンがない・肉が食べたいと眩き、文句タラタラと堂々巡り！御声に聞かず、心頑なになり、感謝を忘れ、神への信頼を失った。しかし神は、御手をもって彼らを荒野で練り直し、作り替え、ついに約束の地へ導き入れた。

◆ヤコブ(「奪う者、だます者」)は荒野(ベテル)で神と出会い、一旦は悔い改めるも、叔父のラバンを騙し、また騙されて 20 年間も苦勞する。しかし神はベニエムにて彼と出会い、彼の傲慢を徹底的に打ち砕き、悔い改めへと導き、ついに兄エサウと涙で和解する者へと変えられた◆6節『(陶器師は器を自分の手で)こわし…』の原語は「シュブ」(「生き返らせ／回復／帰る／住む／悔い改める」等の意)。神は、その御手をもって私たちが打ち砕き、罪の悔い改めへと導き、ついに私たちが御前に歩み、慈しみと平和と優しさに生きる者へと変えてくださる(ミカ書 6:8)。弱さを告白し、御手に委ね、へりくだってあなたの神と共に歩む生涯へと変えていただく！